資　料

学生の障害児者に対する受容的態度に関する研究（第３報）

豊　村　和　真

目　次

【問題意識と目的】
【方法】
【結果と考察】
１．素点の全体的傾向について
　１）受容的態度項目について
　２）接近許容度項目について
　３）知識項目について
　４）交流経験項目について
２．受容的態度の因子的妥当性について
　天井効果（床効果）の検証
　因子分析について
　全体的傾向
　学年学校別傾向
　因子分析結果のまとめ
３．変数間の関係について
【文献】

【問題意識と目的】

一昨年度第一報で，障害者に対する地域住民の人々の態度を，将来専門家として，彼らに直接接することになる介護福祉専門学校学生およびその可能性の高い福祉系学科に属する学生とその他の学科に属する学生の態度を調査することを目的とした報告を行った（豊村，2004)。

昨年度はそれらのデータに，実際には同時期に同内容のアンケートを実施した高校生のデータを加え，全体として高校から，介護福祉専門学校生，大学生までの学生のデータを対象にして，全体的な傾向についての基礎的な集計結果を示した(豊村，2005)。しかしながら，変数が多数あり，これら変数間の関係の詳細を記述するところまでは，できなかった。

そこで本年度はこれらの同一データを使用して，各変数間の関係について多変量解析等を用いて記述し，障害者に対する態度の詳細をのべ，被験者の属性，接触経験等との関連性について分析することを目的とする。

【方法】

調査対象者は昨年度と同様である。すなわち，高校１～３年生（以下「高１」,「高２」,「高３」)，介護福祉系専門学校生（以下「介護専学」)，大学生（英文学科，経済学科等非福祉系の学科（以下「非福祉大」)，福祉系学科（以下「福祉系大」)）1439 名である。さらに今回は，受容的態度，接近許容度，知識，交流経験項目に欠損値が一つでもあった被験者はすべて除いて分析をおこなった。その結果最終的な被験者の属性と数を表１に示す。

配布は大学および専門学校の講義の時間に行い，その場で回収した。その場での回収が困難な学生には自宅に持ち帰って回答した後，設置してあった質問紙回収箱に入れさせた。高校生は授業中に教員によって実施された。調査用紙他は全て豊村（2004）に同じであるが，以下に改めて記述する。

キーワード：障害　受容　性差　態度

表１　被験者一覧

		性別		合計
		女性	男性	
区分	1_高１	88	150	238
	2_高２	119	191	310
	3_高３	93	153	246
	4_介護専門学校	63	56	119
	5_大学福祉系	72	33	105
	6_大学非福祉系	103	121	224
合計		538	704	1242

調査用紙は，精神障害者，知的障害者，身体障害それぞれに対する関心，地域交流，働きかけ，職場進出，能力，その他に関するものから構成される16の受容的態度項目，出現率や犯罪率など知識に関する４項目，会話経験や仕事（遊び）経験，ボランティア経験に関する５項目，性別や在籍学科，学年など被験者のプロフィールを記入する３項目から構成されていた。詳細は以下の通りである。

受容的態度項目として，生川（1995）の結果32項目の中から本研究の目的にそぐわない総合教育尺度をまず除いた。残った「実践的好意」，「能力肯定」，「地域交流」，「理念的好意」の４つの態度尺度から，各態度尺度の信頼性，内的一貫性などを検討するために算出された態度尺度得点と尺度を構成する下位項目との相関係数が高い上位４項目づつを取り出し，16項目を採用した。

生川（1995）の対象は精神遅滞児（者）であったため，質問内容の「ちえ遅れの人」または「ちえ遅れの子ども」を「精神障害者」，「知的障害者」，「身体障害者」の３パターン作成したため，調査対象者１人に対し16項目×３障害の計48項目となった。これらは５段階評価である（付録１参照）。

知識項目として生川（1995）が設定した知識に関する５項目において，知識の有無と態度尺度得点との間に関係が認められなかったとされる３項目を除いた２項目に２項目を追加した４項目を設定し，態度項目と同様に４項目×３障害の計12項目を作成した。これらは各１点とした。これらの項目は「生可能」「出現率」「遺伝性」「犯罪性」を以後「知識」とする（具体的内容については付録１を参照）。

交流経験項目として，藤本・小花和（1973）の調査で用いられた精神障害に関する知識項目のうち，質問内容を「知的障害」と「身体障害」のどちらに変更しても使用可能と思われる５項目を設定し，５項目×３障害の計15項目を作成した。これらも各１点とした。

どの程度具体的に障害者との関係が考えられるかを調査するために，障害ごとに程度が異なると考えられる４項目を作成した。これらを接近許容項目とした。それぞれ隣に引っ越してもかまわない(「許隣人」)，友達になってもかまわない(「許友人」)，恋愛感情が伴う交際をしてもかまわない(「許恋愛」)，結婚してもかまわない（「許結婚」）という項目である（全文は付録１参照）。

他に障害に関する知識として，難聴，精神分裂病，精神遅滞，花粉症，ちえ遅れ，うつ病，肢体不自由を知的障害，身体障害，精神障害に分類する項目を作成し，さらに渡邊・宮本（2000）の項目から福祉施設を児童相談所～軽費老人ホーム19項目から福祉施設を選択する項目を作成したが今回の分析からは除いた。

なお，分析にはSPSS Ver.12を使用した。

【結果と考察】

データとしての精度を高めるために，一つでも欠損値を含む被験者をすべて削除したため，前回の結果から約200名近く被験者数が減少した。その影響に関してまず報告する。

１．素点の全体的傾向について

障害に対する受容的態度，接近許容度，知識，交流経験得点について個々の素点を元に

した平均値による検討を行った。なお，SD についても計算したがさほど値に差はみられなかった。

１）受容的態度項目について

障害に関する受容的態度 16 項目について，各項目に１点～５点を与え，それらの値に基づき個別に分散分析をした（表２受容的態度部分参照）。

障害別にそれぞれの受容的態度項目の平均値を示した。「今回」は，今回報告するデータのことであり，「前回」は豊村（2005）のデータを示す。殆ど平均値に差がみられなかった。なお，有意差の項は，各項目（例えば 01_住みやすく）ごとに，知的障害，身体障害，精神障害間の一元配置の分散分析を行い，有意差が見られた項目について Tukey の多重比較を実施した（５％の有意水準）結果を表示したものである。知的障害，身体障害，精神障害，をそれぞれ，「知」，「身」，「精」と表し，有意差が見られた水準間は不等号「＜」で，有意差が見られない水準間は「＝」で表現した。なお，左より右に行くにつれて有意差がなくても平均点が高くなる順に並べた。

表２　障害別受容的態度，接近許容度，知識，交流経験得点平均点の２年間のデータ比較

項目		知的障害		身体障害		精神障害		有意差	
		今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回の結果	前回の結果
受容的態度	01_住みやすく	4.054	4.053	4.520	4.513	3.898	3.884	精＜知＜身	精＜知＜身
	02_国が援助	4.014	3.999	4.330	4.319	3.788	3.765	精＜知＜身	精＜知＜身
	03_親だけ限界	4.143	4.132	3.988	3.974	4.087	4.087	身＜精＝知	身＜精＝知
	04_社会全体責任	3.462	3.440	3.715	3.687	3.493	3.467	知＝精＜身	知＝精＜身
	05_望_ボラ参加	2.914	2.914	3.283	3.269	2.891	2.875	精＝知＜身	精＝知＜身
	06_望_放送	2.853	2.841	3.076	3.054	2.962	2.954	知＜精＜身	知＜精＜身
	07_望_接触	2.829	2.826	3.233	3.226	2.834	2.824	知＝精＜身	精＝知＜身
	08_望_新聞記事	2.870	2.849	3.044	3.033	2.966	2.948	知＜精＜身	知＜精＜身
	09_普通生活可	3.239	3.236	3.733	3.713	3.114	3.099	精＜知＜身	精＜知＜身
	10_多様作業可	3.445	3.428	3.776	3.764	3.308	3.300	精＜知＜身	精＜知＜身
	11_健常作業可	3.327	3.321	3.780	3.760	3.266	3.258	精＝知＜身	精＝知＜身
	12_指導効果有効	3.655	3.645	3.967	3.953	3.529	3.525	精＜知＜身	精＜知＜身
	13_共同生活要	3.703	3.706	3.989	3.974	3.573	3.564	精＜知＜身	精＜知＜身
	14_社会参加良	3.738	3.722	4.064	4.054	3.579	3.555	精＜知＜身	精＜知＜身
	15_健障共労働良	3.748	3.734	4.060	4.041	3.532	3.514	精＜知＜身	精＜知＜身
	16_健障交流良	3.937	3.924	4.162	4.129	3.709	3.685	精＜知＜身	精＜知＜身
接近許容度	許隣人	3.690	3.713	4.206	4.221	3.143	3.142	精＜知＜身	精＜知＜身
	許友人	3.486	3.508	4.066	4.083	3.064	3.071	精＜知＜身	精＜知＜身
	許恋愛	2.333	2.333	2.968	2.980	2.249	2.245	精＜知＜身	精＜知＜身
	許結婚	2.128	2.131	2.684	2.700	2.061	2.062	精＜知＜身	精＜知＜身
知識	生可能	0.934	0.931	0.899	0.901	0.788	0.789	精＜身＜知	精＜身＜知
	出現率	0.746	0.750	0.750	0.756	0.733	0.735	n.s.	n.s.
	遺伝性	0.875	0.877	0.906	0.906	0.907	0.908	知＜身＝精	知＜身＝精
	犯罪性	0.787	0.784	0.940	0.941	0.506	0.500	精＜知＜身	精＜知＜身
交流経験	経験話	0.658	0.656	0.576	0.574	0.205	0.197	精＜身＜知	精＜身＜知
	経験仕事	0.426	0.428	0.318	0.324	0.122	0.118	精＜身＜知	精＜身＜知
	経験食事	0.323	0.319	0.275	0.272	0.103	0.098	精＜身＜知	精＜身＜知
	経験生活	0.118	0.118	0.135	0.132	0.051	0.049	精＜知＝身	精＜知＝身
	経験ボラ	0.142	0.140	0.155	0.152	0.052	0.050	精＜知＝身	精＜知＝身

「今回」は今回の結果，「前回」は豊村（2005）の結果。
「有意差」の＝は有意差無しを，＜は５％水準で有意差があることを示す。詳細は説明本文

3つの障害別に有意差が出た項目について下位検定を行い，有意差が見られた項目についてはそれらの大小を不等号記号および等号で示したのが表1右端の有意差である。

昨年度の同表では，SDも含めていたが，今回は煩瑣になるため省いた。平均値同様殆ど値は昨年度と異ならなかった。

検定結果は豊村（2005）と全く同じであり，数値も殆ど同じであるが，一カ所，07_望接触（○○障害の人と接してみたいと思う）の項目で，知的障害と精神障害で順位が入れ替わった（検定結果には影響ない）。

結局前回と同様，

精神障害≦知的障害≦身体障害

という傾向がみられた。

2）接近許容度項目について

接近許容度項目4項目について，各項目に1点～5点を与え，それらの値に基づき個別に分散分析をした（表2接近許容度部分参照）。

「許隣人」（○○障害の人があなたの家の隣に引っ越して来てもかまわない），「許友人」（○○障害の人と友達になってもかまわない），「許恋人」（○○障害の人と恋愛感情が伴う交際をしてもかまわない），「許結婚」（○○障害の人と結婚してもかまわない）という4項目であるが，全て昨年同様

精神障害＜知的障害＜身体障害

という順であった。

3）知識項目について

知識項目4項目について，各項目に0点（不正解）～1点（正解）を与え，それらの値に基づき個別に分散分析をした（表2知識参照）。

知識項目のみ記述は直接の問いに対する答えではなく，正解率に変えてある。従って表中1.0が全員正解，0が全員不正解になるように変換されている。

障害の「出現率」（○○障害の出現率は人口1000人中1名以下ですか）のみ有意差が見られないこと，「遺伝性」（○○障害はすべて遺伝によるものだと思いますか）に関する項目の正解率には障害間で有意差が見られること，おおむね精神障害が理解されておらず，特に「犯罪性」については0.506と正解率が低かったこと等すべて豊村（2005）と同様であった。

4）交流経験項目について

交流経験項目5項目について，各項目に0点（なし）～1点（あり）を与え，それらの値に基づき個別に分散分析をした（表2交流経験部分参照）。

「経験話」（○○障害の人と話をしたことがある），「経験仕事」（○○障害の人と一緒に仕事（遊び）をしたことがある）「経験食事」（○○障害の人と一緒に食事をしたことがある）「経験生活」（○○障害の人と生活を共にしたことがある）「経験ボラ」（○○の人のために活動するボランティアに参加したことがある）の項目であるが，頻度としては昨年同様

「経験生活」≦「経験ボラ」＜「経験食事」＜「経験仕事」＜「経験話」

の順で頻度が上昇し，

精神障害＜身体障害≦知的障害

となるのも豊村（2005）と同じであった。

以上のように，データを減らしたことによる影響は平均等の統計量についてはなかったと言えよう。

2．受容的態度の因子的妥当性について

生川（1995）の4因子，即ち理念的好意因子，実践的好意因子，能力肯定因子，地域交流因子から4項目ずつとりだし，16項目の受

容的態度を作成したが，同じ因子構造をとるかどうかを検討した。因子分析は欠損値の影響を或る程度受けるので，平均値とは異なり，必ずしも同じ結果になるとは言えない。

天井効果（床効果）の検証

まず，各受容的態度の天井効果及び床効果の存在を学年別，障害別に調べた（表３）。天井効果及び床効果の判定は小塩（2005）に従い，平均＋１標準偏差が項目がとる最大値を超えた場合に天井効果があると判断し，平均－１標準偏差が最小値以下になった場合に床効果があったと判断した。表３は上から知的障害，身体障害，精神障害に対する受容的態度16項目の，M＋SDは各項目の平均＋１標準偏差の値，M－SDは平均－１標準偏差を表示したものである。これらの値がそれぞれ各項目の最大値（5）と最小値（1）を超えた場合に，表中で濃い網掛けで表示してある。なお表中で薄い網は最大値より0.1小さい値および最小値より0.1大きい値を超えたものであり各々の効果が疑われるものとした。

表３から，①床効果は一つもない，②身体障害では天井効果が見られる項目が多い，③介護専門学校生（4_介護専学），ついて福祉系学部の大学生（5_福祉系大）は天井効果が見られることが多い，という結果が読み取れる。

これは参照した生川（1995）の項目が元々建前回答が出やすいものであったことを考慮すれば，ある程度は当然と考えられる結果である。しかしながら，大多数で共通して天井効果が見られる項目を因子分析するのは問題がある。

そこで特にほぼすべての学年，すべての障害について天井効果が見られているものをはずすことにした。表３から，01_住みやすく，02_国が援助，03_親だけ限界の３項目である（それぞれ，○○障害の人のために地域環境をもっと住みやすいものにしていくべきだと思う，○○障害の人が仕事につけるように国の方でもっと働きかけるべきだと思う，○○障害の人の面倒を見るのは，親だけでは限界があると思う）。この３項目では高校生のみ，精_02国が援助（精神障害の人が仕事につけるように国の方でもっと働きかけるべきだと思う）が網掛けになっていないが，それでもM＋SDの値が4.78以上であり，残りの全学年についてはすべての障害について4.9以上でほぼ天井効果が見られているので，これら３項目は因子分析からはずした。

因子分析について

全体的傾向

そこで，豊村（2005）同様，因子抽出法に最尤法を用い，バリマックス回転，因子数は固有値が１以上で，先の３項目を除く13項目について障害別に第一回目の因子分析を行った。その結果，すべて２因子に収束した。しかしながら，共通性について04_社会全体責任（○○障害の人のことは社会全体が責任をもつべきだと思う）の項目が，知能については0.255，身体障害については0.279，精神障害については0.284と値が低い。これ以外の項目では，特に知_09普通生活可（知的障害の人も普通の社会生活を送ることが出来ると思う）の0.437が最低で，0.4水準は他に２つ，0.5水準が３つ，他のすべて（30項目）は0.6以上の共通性をもっていた。そこで，04_社会全体責任の項目も削除した。

残った因子12項目について，第二回目の因子分析を最尤法，バリマックス回転の条件で行った。その結果を表４に示した。３障害ともほぼ同じ結果になった。障害者に対する受容的態度は２因子に集約され，あまり因子負荷量が重ならないことが示された。なおその因子プロットの様子を知的障害について図１に示す。他の障害も同様の結果である。

これらの因子は豊村（2005），豊村（2004）に従い，第一因子を社会的関与因子，第二因子を個人的関与因子と名づけた。

表3　学年別受容的態度変数の天井効果と床効果

変数	1_高1		2_高2		3_高3		4_介護専学		5_福祉系大		6_非福祉大	
	M＋SD	M－SD	M＋SD	M－SD	M＋SD	M－SD	M＋SD	M－SD	M＋SD	M－SD	M＋SD	M－SD
知01_住みやすく	5.076	2.941	4.994	2.916	4.975	2.968	5.181	3.558	5.094	3.325	5.027	3.151
知02_国が援助	4.964	2.792	4.928	2.807	4.960	2.886	5.258	3.381	5.091	3.481	5.026	3.313
知03_親だけ限界	5.088	3.029	5.097	2.948	5.101	3.086	5.212	3.309	5.216	3.584	5.156	3.380
知04_社会全体責任	4.511	2.094	4.477	2.259	4.406	2.098	4.775	2.839	4.901	2.946	4.644	2.543
知05_望_ボラ参加	3.938	1.322	4.064	1.613	4.026	1.470	4.921	2.911	4.537	2.168	3.939	1.587
知06_望_放送	3.763	1.287	3.973	1.582	3.928	1.495	4.649	2.544	4.586	2.252	3.919	1.688
知07_望_接触	3.784	1.267	3.851	1.523	3.894	1.448	4.865	2.815	4.487	2.217	3.840	1.633
知08_望_新聞記事	3.660	1.247	3.891	1.638	3.910	1.570	4.503	2.505	4.714	2.543	3.974	1.847
知09_普通生活可	4.506	2.108	4.345	1.971	4.351	1.852	4.545	2.497	4.504	2.410	4.272	2.085
知10_多様作業可	4.547	2.269	4.470	2.188	4.460	2.313	4.878	2.702	4.616	2.698	4.459	2.398
知11_健常作業可	4.402	2.010	4.374	2.085	4.396	2.132	4.757	2.487	4.714	2.524	4.495	2.238
知12_指導効果有効	4.646	2.354	4.614	2.470	4.712	2.654	4.987	3.030	4.730	2.889	4.645	2.721
知13_共同生活要	4.567	2.492	4.561	2.446	4.758	2.616	5.074	3.363	4.830	3.018	4.759	2.849
知14_社会参加良	4.639	2.555	4.611	2.486	4.719	2.655	5.110	3.428	4.921	3.041	4.760	2.865
知15_健障共労働良	4.690	2.478	4.666	2.585	4.767	2.575	5.169	3.385	4.917	2.950	4.776	2.841
知16_健障交流良	4.889	2.624	4.805	2.866	4.974	2.880	5.316	3.692	4.993	3.160	4.889	2.942
身01_住みやすく	5.346	3.570	5.422	3.507	5.333	3.821	5.381	3.980	5.290	3.986	5.240	3.680
身02_国が援助	5.127	3.192	5.241	3.237	5.195	3.569	5.295	3.781	5.290	3.853	5.197	3.517
身03_親だけ限界	4.963	2.743	4.991	2.687	5.023	2.685	5.269	3.168	5.218	3.525	5.152	3.214
身04_社会全体責任	4.641	2.326	4.737	2.424	4.645	2.412	4.993	3.243	5.046	3.335	4.929	2.901
身05_望_ボラ参加	4.263	1.644	4.526	1.938	4.372	1.945	5.129	3.392	4.755	2.388	4.361	2.005
身06_望_放送	3.877	1.434	4.238	1.769	4.193	1.652	4.748	2.815	4.889	2.692	4.296	1.873
身07_望_接触	4.092	1.623	4.407	1.903	4.357	1.952	5.080	3.088	4.760	2.649	4.321	1.983
身08_望_新聞記事	3.801	1.409	4.128	1.730	4.083	1.681	4.770	2.574	4.925	2.733	4.240	2.055
身09_普通生活可	4.759	2.602	4.897	2.515	4.819	2.392	4.970	2.946	4.976	3.005	4.762	2.684
身10_多様作業可	4.802	2.517	4.859	2.528	4.911	2.528	4.983	2.865	5.020	3.113	4.901	2.823
身11_健常作業可	4.790	2.428	4.888	2.576	4.907	2.540	5.038	2.862	4.988	3.088	4.903	2.856
身12_指導効果有効	4.885	2.619	4.996	2.849	5.043	2.851	5.075	3.278	5.088	3.274	4.975	3.159
身13_共同生活要	4.873	2.590	4.915	2.827	5.000	3.081	5.191	3.565	5.150	3.498	4.959	3.050
身14_社会参加良	4.907	2.749	4.909	3.001	5.038	3.044	5.190	3.583	5.216	3.584	5.009	3.321
身15_健障共労働良	4.955	2.785	5.005	2.970	5.000	3.008	5.212	3.493	5.184	3.482	5.035	3.251
身16_健障交流良	4.992	2.790	5.040	3.115	5.163	3.137	5.295	3.714	5.249	3.703	5.102	3.398
精01_住みやすく	4.951	2.814	4.930	2.722	4.924	2.506	5.139	3.399	5.007	3.165	4.959	2.898
精02_国が援助	4.856	2.640	4.787	2.458	4.790	2.373	5.082	3.187	5.067	3.295	4.954	2.885
精03_親だけ限界	5.103	2.872	5.156	2.696	5.210	2.806	5.262	3.242	5.281	3.595	5.274	3.226
精04_社会全体責任	4.539	2.242	4.527	2.157	4.545	2.016	4.987	2.996	4.807	2.774	4.802	2.475
精05_望_ボラ参加	4.012	1.434	4.109	1.484	4.047	1.392	4.851	2.561	4.435	1.927	4.065	1.578
精06_望_放送	3.929	1.290	4.143	1.560	4.100	1.486	4.824	2.739	4.643	2.405	4.170	1.786
精07_望_接触	3.870	1.306	4.049	1.480	3.934	1.310	4.896	2.650	4.381	2.171	3.889	1.549
精08_望_新聞記事	3.821	1.279	4.083	1.568	4.101	1.411	4.781	2.648	4.893	2.631	4.232	1.893
精09_普通生活可	4.323	2.004	4.328	1.833	4.250	1.652	4.560	2.431	4.343	2.190	4.144	1.883
精10_多様作業可	4.471	2.084	4.505	1.992	4.478	1.929	4.823	2.539	4.595	2.624	4.289	2.113
精11_健常作業可	4.400	2.096	4.391	1.951	4.442	1.842	4.822	2.556	4.562	2.466	4.329	2.091
精12_指導効果有効	4.593	2.247	4.699	2.250	4.766	2.218	4.882	2.849	4.629	2.742	4.555	2.463
精13_共同生活要	4.676	2.332	4.708	2.285	4.771	2.302	5.003	2.913	4.761	2.801	4.631	2.351
精14_社会参加良	4.695	2.397	4.704	2.276	4.674	2.220	5.106	2.928	4.767	2.757	4.689	2.436
精15_健障共労働良	4.637	2.330	4.636	2.222	4.667	2.259	5.001	2.881	4.807	2.698	4.634	2.330
精16_健障交流良	4.764	2.412	4.806	2.433	4.835	2.531	5.156	3.197	4.871	2.939	4.813	2.490

知_数字＋変数名は知的障害に関する受容的態度項目（付録参照）。同様に身_数字＋変数名は身体障害，精_数字＋変数名は精神障害に関する項目。

薄い網は天井効果（または床効果）の可能性ありを，濃い網は天井効果（または床効果）を示す。なお説明本文。

表４　障害別因子分析結果

知的障害	因子１	因子２	共通性
知14_社会参加良	0.822	0.228	0.728
知15_健障共労働良	0.768	0.246	0.651
知16_健障交流良	0.758	0.303	0.667
知13_共同生活要	0.755	0.300	0.660
知12_指導効果有効	0.653	0.198	0.466
知10_多様作業可	0.636	0.162	0.430
知11_健常作業可	0.622	0.197	0.425
知09_普通生活可	0.556	0.217	0.357
知06_望_放送	0.213	0.826	0.728
知07_望_接触	0.308	0.808	0.748
知05_望_ボラ参加	0.299	0.783	0.701
知08_望_新聞記事	0.233	0.782	0.665
因子寄与	4.222	3.005	
寄与率	35.182	25.042	60.224

身体障害	因子１	因子２	共通性
身15_健障共労働良	0.856	0.245	0.792
身14_社会参加良	0.847	0.226	0.769
身16_健障交流良	0.826	0.267	0.754
身13_共同生活要	0.792	0.271	0.701
身12_指導効果有効	0.682	0.147	0.486
身10_多様作業可	0.677	0.168	0.486
身11_健常作業可	0.675	0.189	0.491
身09_普通生活可	0.637	0.236	0.461
身06_望_放送	0.164	0.909	0.853
身08_望_新聞記事	0.194	0.845	0.751
身07_望_接触	0.326	0.792	0.733
身05_望_ボラ参加	0.297	0.762	0.670
因子寄与	4.802	3.144	
寄与率	40.017	26.202	66.219

精神障害	因子１	因子２	共通性
精14_社会参加良	0.859	0.226	0.788
精15_健障共労働良	0.855	0.241	0.789
精13_共同生活要	0.822	0.248	0.738
精16_健障交流良	0.816	0.260	0.734
精11_健常作業可	0.738	0.245	0.605
精10_多様作業可	0.713	0.275	0.584
精12_指導効果有効	0.709	0.225	0.553
精09_普通生活可	0.668	0.279	0.524
精06_望_放送	0.174	0.905	0.850
精08_望_新聞記事	0.199	0.885	0.823
精07_望_接触	0.387	0.693	0.631
精05_望_ボラ参加	0.361	0.663	0.570
因子寄与	5.163	3.026	
寄与率	43.028	25.215	68.243

学年学校別傾向

ある程度の被験者数が確保されているので，学年学校別に上記の結果を検討した。①因子数を定めず同様の方法で行った場合（固有値１以上の因子を採用）と，②因子数を２に限定した場合の各学年学校別の因子分析を実行した。

その結果，①の場合は必ずしも２因子にならないことが示された。全部で学年学校別(6)×障害別（3）のうち，３因子になった組み合わせは，高３の知的障害，高３の精神障害，介護専学の知的障害，介護専学の身体障害，非福祉大の知的障害，非福祉大の身体障害の計６であった。残りの12は２因子であった。３因子になった組み合わせについて，分析の際に２因子に指定した場合の結果と組み合わせた。(付録２参照)

寄与率が5.9%～10程２因子の場合に低下した。この結果をみると，すべてにおいて，元の項目５～８の個人的関与因子は常に１つにまとまって存在しているが，社会的関与因子が１つにまとまるか２つ（能力因子とその他）に分裂するというパターンであり，ほぼ豊村（2004）の予想どおりであった。

因子分析結果のまとめ

方法で述べたように，生川（1995）の「実践的好意」,「能力肯定」,「地域交流」,「理念的好意」の４つの態度尺度を反映する項目からなる16項目で調査を実施したが,天井効果が見られたため，および共通性が低いという理由で４項目を削除して因子分析を実施した。削除した項目は結果としてすべて生川(1995）の「理念的好意」因子であった。これらの因子は，例えば「○○障害の人のために地域環境をもっと住みやすいものにしていくべきだと思う」,「○○障害の人が仕事につけるように国の方でもっと働きかけるべきだと思う」というような，反対しにくい項目からなっている(付録参照１～４項目)。また同様に「地域交流」因子も，「○○障害の人もどんどん社会参加をした方がよいと思う」,「他の人たちと○○障害の人がまじわることは大切なことだと思う」というような，反対しにく

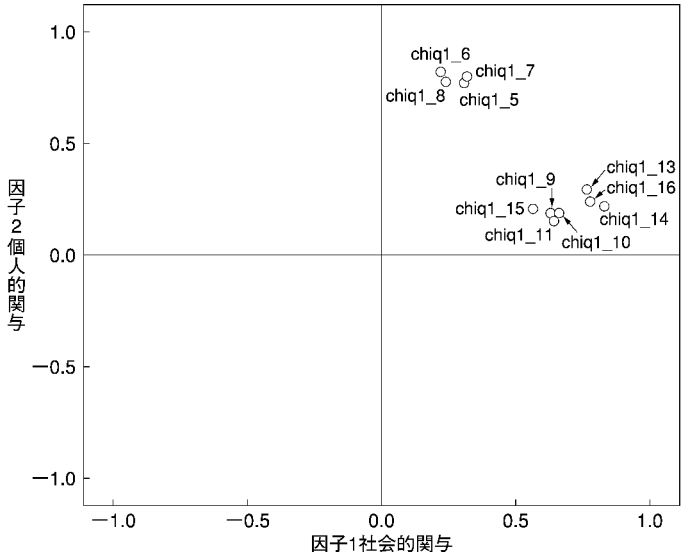

図1　知的障害に対する受容的態度の因子分析の結果（説明本文）

い項目からなっている（付録参照13〜16項目)。そのため，極端に「そう思う」の方に結果が偏ってしまい天井効果がでたものと思われる。しかしながら,「地域交流」因子の値はっきり天井効果としてでてくるのは介護専学(介護専門学校生）のみであった。

改めて本報告で使用した項目の原作成者の論文（生川，1995)）に示された数値を検討してみると,「地域交流」因子と「理念的好意」因子は生川（1995）の段階ですでに天井効果が予想されている項目であった。「地域交流」の平均値は，4.13〜4.71(SDは0.61〜0.92)の範囲,「理念的好意」は4.01〜4.58（SDは0.77〜0.99）の範囲であった。生川（1995）では，信頼性の検討はしているが，天井効果，床効果の検討はなされていなかった。なお，他の因子に関連する項目では，平均＋SDが5.0を超えた項目はなかった。本報告の社会的関与因子の構成要素でもあったため，結果的にいくつかの因子を削除せざるをえなかった。

豊村（2005)，および豊村（2004）では，障害者に対する受容的態度は大きく社会的関与因子,と個人的関与因子と名付ける2因子(あるいは社会的関与因子からもう一つ能力肯定因子を取り出し3因子）になるという考察をしていた。今回の因子分析では，ほぼこの考察通りになった。すなわち，まず個人的に関与したいと考えるか否かの因子があり，他に社会的な関与をすべきという因子が基本的な2因子で，社会的な関与因子には障害者個人の能力が複合しているように思われる。その例として，表3と付録2を対比すると，特に身体障害については，項目番号9〜12の生川(1995）の「能力肯定」因子に天井効果がでている学年学校群と因子が3因子になる学年学校群とが対応していない。ここから,「能力肯定」の意味が必ずしも一意的にとらえられていない可能性がある。一例として，障害者の個人的な能力が乏しいため社会的に関与すべきと言う考え方と，障害者の個人的な能力が十分なため社会的に関与できるという2つの考え方が混在しているというような解釈ができる。今後検討すべき課題である。

3．変数間の関係について

知的障害，身体障害，精神障害ごとに，因子分析の項でのべた,社会的関与因子得点(合

計点），個人的関与因子得点（合計点）それぞれについて，接近許容項目，知識項目，交流経験項目を独立変数として。カテゴリカル回帰分析を行った。これらの項目は個別には２値変数が大半であるためである。

結果は表５に示した。表５は上段が知的障害，中段が身体障害，下段が精神障害に関係し，左側が社会的関与因子，右側が個人的関

表５　カテゴリカル回帰分析結果

接近許容，知識，交流経験を独立変数，知_社会的関与（知的障害についての社会的関与因子）等を従属変数とした回帰分析の結果Ｒ２乗は決定係数，β は標準化係数，p は有意確率。なお本文参照

		R２乗	知 社会的関与		R２乗	知 個人的関与	
		0.345	β	p	0.367	β	p
接近許容	知_許隣人		0.125	0.00	知_許隣人	−0.066	0.01
	知_許友人		0.377	0.00	知_許友人	0.398	0.00
	知_許恋愛		0.050	0.17	知_許恋愛	0.144	0.00
	知_許結婚		0.085	0.00	知_許結婚	0.114	0.00
知識	知_生可能		0.048	0.04	知_生可能	0.015	0.53
	知_出現率		0.051	0.03	知_出現率	0.062	0.01
	知_遺伝性		−0.004	0.88	知_遺伝性	−0.029	0.22
	知_犯罪性		0.098	0.00	知_犯罪性	0.061	0.01
交流経験	知_経験話		−0.019	0.51	知_経験話	0.019	0.50
	知_経験仕事		0.002	0.95	知_経験仕事	0.034	0.31
	知_経験食事		0.075	0.02	知_経験食事	0.009	0.79
	知_経験生活		0.001	0.97	知_経験生活	−0.024	0.36
	知_経験ボラ		−0.007	0.77	知_経験ボラ	0.114	0.00
		R２乗	身 社会的関与		R２乗	身 個人的関与	
		0.369	β	p	0.330	β	p
接近許容	身_許隣人		0.083	0.00	身_許隣人	−0.057	0.04
	身_許友人		0.431	0.00	身_許友人	0.339	0.00
	身_許恋愛		0.028	0.70	身_許恋愛	0.064	0.08
	身_許結婚		0.096	0.00	身_許結婚	0.233	0.00
知識	身_生可能		0.035	0.13	身_生可能	0.016	0.51
	身_出現率		0.053	0.02	身_出現率	0.027	0.25
	身_遺伝性		−0.009	0.70	身_遺伝性	−0.025	0.31
	身_犯罪性		0.065	0.01	身_犯罪性	0.010	0.69
交流経験	身_経験話		−0.050	0.08	身_経験話	−0.005	0.85
	身_経験仕事		0.084	0.01	身_経験仕事	0.017	0.62
	身_経験食事		−0.019	0.59	身_経験食事	−0.009	0.80
	身_経験生活		0.024	0.40	身_経験生活	0.044	0.14
	身_経験ボラ		0.039	0.12	身_経験ボラ	0.172	0.00
		R２乗	精 社会的関与		R２乗	精 個人的関与	
		0.377	β	p	0.325	β	p
接近許容	精_許隣人		0.145	0.00	精_許隣人	−0.069	0.01
	精_許友人		0.359	0.00	精_許友人	0.374	0.00
	精_許恋愛		0.185	0.00	精_許恋愛	0.178	0.00
	精_許結婚		−0.069	0.00	精_許結婚	0.112	0.01
知識	精_生可能		0.032	0.17	精_生可能	0.022	0.35
	精_出現率		0.045	0.05	精_出現率	0.057	0.02
	精_遺伝性		0.010	0.66	精_遺伝性	−0.021	0.39
	精_犯罪性		0.047	0.05	精_犯罪性	−0.009	0.70
交流経験	精_経験話		0.006	0.86	精_経験話	−0.031	0.38
	精_経験仕事		0.030	0.44	精_経験仕事	0.034	0.40
	事精_経験食		0.013	0.74	事精_経験食	−0.030	0.46
	精_経験生活		0.031	0.31	精_経験生活	0.012	0.71
	精_経験ボラ		−0.029	0.26	精_経験ボラ	0.100	0.00

与因子に関係する数値をまとめたものである。

β は標準化係数，p は有意確率をさす。網掛けの R 2乗は決定係数である。全体としてあまり大きな値ではなかった。

β は社会的関与因子，個人的関与因子への影響力を示すので，接近許容項目では，「許友人」（友達になってもかまわない）が大きな値を示している。知識は特にどれということがない。交流経験ではボランティア経験が大きな影響力を持っていた。

社会的関与因子得点と個人的関与因子の一方にのみ有意差が見られる項目を太字で示した。3障害すべてで差が見られたのは，ボランティア経験であった。これはボランティア体験がある人は個人的に関与をするが，社会的には関与しないということを示している。また社会的関与因子に寄与する交流経験の項目は知的障害については，「経験食事」（知的障害の人と一緒に食事をしたことがある）が，身体障害については「経験仕事」（身体障害の人と一緒に仕事（遊び）をしたことがある）であった。精神障害にはそのような項目はなかった。これはあまり接したことがないということを反映している可能性もある。

なお，本報告は2004年度北星学園大学特別研究費の補助を受けた。

［文献］

藤本忠明・小花和昭介（1973）「精神障害者に対する偏見の規定要因について」追手門学院大学文学部紀要7，140-151

法務省法務総合研究所（2001）「平成13年度版犯罪白書」，財務省印刷局

生川善雄（1995）「精神遅滞児（者）に対する健常者の態度に関する多次元的研究 ── 態度と接触経験，性，知識との関係 ──」特殊教育学研究，32(4)，11-19

大谷博俊（2002），「知的障害児（者）に対する健常者の態度に関する研究 ── 大学生の態度と交流経験・接触経験との関連を中心に ──」特殊教育学研究，40(2)，215-222

小塩真司(2005)，「研究事例で学ぶ SPSS と Amos による心理・調査データ解析」，東京図書

豊村和真（2004），「学生の障害児者に対する受容的態度に関する研究(第1報)」北星論集，41，85-98

豊村和真（2005），「学生の障害児者に対する受容的態度に関する研究(第2報)」北星論集，42，87-99

渡邊映子・宮本文雄（2000）「福祉心理学科学生の福祉意識に関する調査研究」東京成徳大学研究紀要7，77-90

付録１　質問紙（知的障害分と追加質問）

Ⅰ　知的障害について述べた下記の意見に対し，あなたがどう思うかを１（全く思わない）から５（とても思う）までの中で最も適当だと思った番号に○をつけて下さい

（１）　知的障害の人のために，地域環境をもっと住みやすいものにしていくべきだと思う

1　2　3　4　5

（２）　知的障害の人が仕事につけるように国の方でもっと働きかけるべきだと思う

1　2　3　4　5

（３）　知的障害の人の面倒を見るのは，親だけでは限界があると思う

1　2　3　4　5

（４）　知的障害の人のことは，社会全体が責任を持つべきだと思う

1　2　3　4　5

（５）　知的障害の人のためのボランティア活動に参加したいと思う

1　2　3　4　5

（６）　知的障害に関するテレビやラジオの放送を見たり聞いたりしたいと思う

1　2　3　4　5

（７）　知的障害の人と接してみたいと思う

1　2　3　4　5

（８）　知的障害に関する新聞記事などを読みたいと思う

1　2　3　4　5

（９）　知的障害の人も普通の社会生活を送ることが出来ると思う

1　2　3　4　5

(10)　知的障害の人もいろいろな作業をやっていけると思う

1　2　3　4　5

(11)　一般の人の仕事の中には知的障害の人が入って出来る仕事がたくさんあると思う

1　2　3　4　5

(12)　知的障害の人も，指導すれば効果が上がると思う

1　2　3　4　5

(13)　知的障害の人たちも他の人たちと一緒に生活することが必要だと思う

1　2　3　4　5

(14)　知的障害の人もどんどん社会参加をした方がよいと思う

1　2　3　4　5

(15)　他の人たちと知的障害の人たちが一緒に働くことは良いことだと思う

1　2　3　4　5

(16)　他の人たちと知的障害の人がまじわることは大切なことだと思う

1　2　3　4　5

II　知的障害の人とあなた自身との関係を述べた次の質問に対し，あなたがどう思っているかを1（かまう）～5（かまわない）のうち，あてはまる番号に○を付けて答えて下さい

（1）　知的障害の人があなたの家の隣に引っ越して来てもかまわない

1　　2　　3　　4　　5

（2）　知的障害の人と友達になってもかまわない

1　　2　　3　　4　　5

（3）　知的障害の人と（恋愛感情が伴う）交際をしてもかまわない

1　　2　　3　　4　　5

（4）　知的障害の人と結婚してもかまわない（あなたが未婚とした場合）

1　　2　　3　　4　　5

III　知的障害について述べた意見に対しあなたがどう思っているかをあてはまる番号に○をつけて答えてください

（1）　どこの家庭からでも知的障害の子供は産まれる可能性があると思いますか

1．思う　　2．思わない

（2）　知的障害の出現率は，人口1,000人中1人（0.1%）以下だと思いますか

1．思う　　2．思わない

（3）　知的障害はすべて遺伝によるものだと思いますか

1．思う　　2．思わない

（4）　知的障害の人が犯罪を犯す率は健常者に比べ高いと思いますか

1．思う　　2．思わない

IV　下記の質問で，自分に当てはまれば「はい」の方に，当てはまらなければ「いいえ」の方に○をつけてください

（1）　知的障害の人と話をしたことがある

は　い　　いいえ

（2）　知的障害の人と一緒に仕事（遊び）をしたことがある

は　い　　いいえ

（3）　知的障害の人と一緒に食事をしたことがある

は　い　　いいえ

（4）　知的障害の人と生活を共にしたことがある

は　い　　いいえ

（5）　知的障害の人のために活動するボランティアに参加したことがある

は　い　　いいえ

付録２　学年学校別因子分析結果

高３知能障害

2 因子

	因子１	因子２
知14_社会参加良	0.791	0.196
知13_共同生活要	0.779	0.216
知15_健障共労働良	0.739	0.245
知16_健障交流良	0.737	0.253
知12_指導効果有効	0.616	0.151
知11_健常作業可	0.536	0.155
知10_多様作業可	0.515	0.177
知09_普通生活可	0.494	0.236
知07_望_接触	0.239	0.845
知06_望_放送	0.209	0.796
知08_望_新聞記事	0.210	0.785
知05_望_ボラ参加	0.342	0.746
因子寄与	3.759	2.864
寄与率（%）	31.3	23.9
寄与率累積（%）		55.2

3 因子

	因子１	因子２	因子３
知07_望_接触	0.844	0.226	0.111
知06_望_放送	0.792	0.133	0.196
知08_望_新聞記事	0.779	0.143	0.192
知05_望_ボラ参加	0.744	0.311	0.162
知16_健障交流良	0.244	0.777	0.205
知14_社会参加良	0.191	0.702	0.360
知13_共同生活要	0.208	0.687	0.373
知15_健障共労働良	0.236	0.678	0.327
知11_健常作業可	0.128	0.192	0.720
知12_指導効果有効	0.131	0.342	0.615
知10_多様作業可	0.157	0.230	0.615
知09_普通生活可	0.224	0.286	0.470
因子寄与	2.805	2.504	2.029
寄与率（%）	23.4	20.9	16.9
寄与率累積（%）			61.1

高３精神障害

	因子１	因子２
精15_健障共労働良	0.889	0.220
精14_社会参加良	0.850	0.222
精16_健障交流良	0.824	0.206
精13_共同生活要	0.782	0.257
精11_健常作業可	0.693	0.262
精10_多様作業可	0.663	0.295
精09_普通生活可	0.603	0.286
精12_指導効果有効	0.603	0.221
精08_望_新聞記事	0.198	0.885
精06_望_放送	0.166	0.861
精07_望_接触	0.394	0.707
精05_望_ボラ参加	0.353	0.569
因子寄与	4.798	2.839
寄与率（%）	40.0	23.7
寄与率累積（%）		63.6

	因子１	因子２	因子３
精15_健障共労働良	0.839	0.369	0.218
精16_健障交流良	0.777	0.330	0.208
精13_共同生活要	0.762	0.257	0.270
精14_社会参加良	0.732	0.421	0.218
精10_多様作業可	0.285	0.831	0.229
精11_健常作業可	0.350	0.779	0.201
精12_指導効果有効	0.277	0.696	0.169
精09_普通生活可	0.303	0.664	0.239
精08_望_新聞記事	0.157	0.143	0.888
精06_望_放送	0.106	0.169	0.852
精07_望_接触	0.292	0.284	0.697
精05_望_ボラ参加	0.300	0.199	0.564
因子寄与	3.009	2.882	2.708
寄与率（%）	25.1	24.0	22.6
寄与率累積（%）			71.6

介護専学知能

	因子１	因子２
知14_社会参加良	0.851	0.186
知16_健障交流良	0.711	0.196
知15_健障共労働良	0.708	0.143
知13_共同生活要	0.685	0.235
知09_普通生活可	0.658	0.177
知10_多様作業可	0.634	0.257
知12_指導効果有効	0.543	0.286
知11_健常作業可	0.452	0.195
知07_望_接触	0.190	0.823
知05_望_ボラ参加	0.257	0.690
知06_望_放送	0.153	0.683
知08_望_新聞記事	0.295	0.646
因子寄与	3.745	2.405
寄与率（%）	31.2	20.0
寄与率累積（%）		51.2

	因子１	因子２	因子３
知14_社会参加良	0.797	0.181	0.327
知16_健障交流良	0.781	0.201	0.138
知15_健障共労働良	0.694	0.136	0.239
知13_共同生活要	0.560	0.224	0.375
知12_指導効果有効	0.402	0.279	0.375
知07_望_接触	0.173	0.806	0.120
知05_望_ボラ参加	0.315	0.722	0.005
知06_望_放送	0.020	0.684	0.261
知08_望_新聞記事	0.213	0.626	0.240
知10_多様作業可	0.288	0.199	0.828
知09_普通生活可	0.405	0.134	0.640
知11_健常作業可	0.157	0.147	0.627
因子寄与	2.648	2.330	2.092
寄与率（%）	22.1	19.4	17.4
寄与率累積（%）			58.9

介護専学身体障害

	因子１	因子２
身14_社会参加良	0.900	0.236
身16_健障交流良	0.820	0.238
身15_健障共労働良	0.818	0.292
身13_共同生活要	0.811	0.309
身09_普通生活可	0.562	0.389
身10_多様作業可	0.523	0.342
身11_健常作業可	0.495	0.344
身12_指導効果有効	0.450	0.362
身06_望_放送	0.165	0.896
身07_望_接触	0.391	0.778
身08_望_新聞記事	0.293	0.699
身05_望_ボラ参加	0.450	0.697
因子寄与	4.316	3.192
寄与率（%）	36.0	26.6
寄与率累積（%）		62.6

	因子１	因子２	因子３
身14_社会参加良	0.851	0.227	0.313
身16_健障交流良	0.797	0.245	0.235
身15_健障共労働良	0.755	0.282	0.325
身13_共同生活要	0.750	0.300	0.316
身06_望_放送	0.101	0.831	0.266
身07_望_接触	0.353	0.820	0.173
身05_望_ボラ参加	0.422	0.735	0.168
身08_望_新聞記事	0.219	0.648	0.292
身11_健常作業可	0.216	0.184	0.851
身10_多様作業可	0.272	0.196	0.791
身09_普通生活可	0.366	0.280	0.642
身12_指導効果有効	0.254	0.256	0.605
因子寄与	3.172	2.821	2.701
寄与率（%）	26.4	23.5	22.5
寄与率累積（%）			72.5

非福祉大知的障害

	因子１	因子２
知14_社会参加良	0.824	0.116
知15_健障共労働良	0.741	0.258
知13_共同生活要	0.736	0.246
知16_健障交流良	0.731	0.319
知11_健常作業可	0.693	0.165
知12_指導効果有効	0.685	0.207
知10_多様作業可	0.677	0.080
知09_普通生活可	0.599	0.092
知07_望_接触	0.211	0.848
知06_望_放送	0.108	0.841
知08_望_新聞記事	0.199	0.799
知05_望_ボラ参加	0.270	0.797
因子寄与	4.238	3.026
寄与率（%）	35.3	25.2
寄与率累積（%）		60.5

	因子１	因子２	因子３
知07_望_接触	0.855	0.184	0.142
知06_望_放送	0.829	0.016	0.154
知05_望_ボラ参加	0.801	0.227	0.178
知08_望_新聞記事	0.784	0.091	0.212
知10_多様作業可	0.074	0.760	0.255
知11_健常作業可	0.166	0.752	0.271
知09_普通生活可	0.100	0.700	0.173
知12_指導効果有効	0.193	0.543	0.444
知16_健障交流良	0.277	0.228	0.852
知15_健障共労働良	0.219	0.299	0.774
知14_社会参加良	0.103	0.517	0.613
知13_共同生活要	0.230	0.426	0.585
因子寄与	2.945	2.612	2.529
寄与率（%）	24.5	21.8	21.1
寄与率累積（%）			67.4

非福祉大身体障害

	因子１	因子２
身14_社会参加良	0.850	0.109
身15_健障共労働良	0.819	0.197
身12_指導効果有効	0.742	0.119
身10_多様作業可	0.741	0.105
身16_健障交流良	0.740	0.261
身11_健常作業可	0.724	0.143
身13_共同生活要	0.723	0.219
身09_普通生活可	0.643	0.187
身06_望_放送	0.118	0.912
身07_望_接触	0.189	0.879
身08_望_新聞記事	0.172	0.826
身05_望_ボラ参加	0.249	0.747
因子寄与	4.643	3.091
寄与率（%）	38.7	25.8
寄与率累積（%）		64.5

	因子１	因子２	因子３
身06_望_放送	0.908	0.085	0.104
身07_望_接触	0.877	0.123	0.158
身08_望_新聞記事	0.822	0.110	0.151
身05_望_ボラ参加	0.746	0.187	0.180
身11_健常作業可	0.138	0.814	0.263
身10_多様作業可	0.097	0.783	0.312
身12_指導効果有効	0.112	0.726	0.349
身09_普通生活可	0.190	0.694	0.225
身16_健障交流良	0.237	0.236	0.834
身15_健障共労働良	0.171	0.375	0.806
身14_社会参加良	0.096	0.494	0.681
身13_共同生活要	0.206	0.343	0.660
因子寄与	3.040	2.911	2.676
寄与率（%）	25.3	24.3	22.3
寄与率累積（%）			71.9

学年学校別に最尤法，バリマックス回転，固有値１以上の条件で因子分析をした結果３因子が抽出された項目について，２因子で因子分析を実施した結果と対比した表。なお，説明本文